

《校長の教育理念・経営方針》 どんどん～明日も来なくなる学校へ～

ふるさとステーション「岐阜小」で育てる全ての子どもたちに、多くの大人（学校・保護者・地域）が、あたたかい愛情表現（笑顔や言葉、行動など）でつながり合えば、全ての子どもたちが「自分にはいいところがある」と気づき、自己肯定感が育つ。自己肯定感が育った多様な子どもたちが集り、互いを認め合いながら、共に希望をもって挑戦をどんどん積み重ねた先には、自校肯定感が育まれる。そんな子どもたちが大人になった時には、持続可能な循環型のあたたかい地域社会（≡「ふるさと大好き」）を創造できる。

県の教育

市の教育

【希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育】一人ひとりのよさが輝き、互いに認め合ふ心と主体的かつ協働的な学びを通して未来の礎となる力を育む。その子らしさを生かし、可能性を伸ばす

学校の教育目標 「心豊かで 自ら求め 学び合う 岐阜小の子」		
<b>すすんで（自主性）</b> 「やってみよう」「できた」「わかった」という願いや課題を粘り強く追求する。	<b>なかよく（社会性）</b> 「いっしょにやってみよう」「ありがとう」「ごめんなさい」と、互いを認め合って共に活動する。	<b>きたえる（創造性）</b> 「もっとやってみよう」「つくりかえてみよう」と、よりよい生き方を求めて創り出す。
合い言葉 「ふるさと大好き」		

どんどん  
ウェルビーイング  
主体性  
自己肯定感  
安心感 等の  
追求

学校の教育目標具現に向けた 重点活動	
<b>主体性を育む</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体性を育む教育の展開</li> <li>遊びを通した学びと各教科等学習のつながり</li> <li>リアルな体験活動の重視</li> <li>ロイロノート等、多様なアウトプットの場の保障</li> <li>個別最適な学びの展開、リフレクション</li> </ul>	<b>自己肯定感を育む</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもをよさで見ていくことを組織で決意</li> <li>複数の目で子どものよさを多面的に見取る</li> <li>行為の背景にある意識を価値づける</li> <li>全校・学年・学級でのよさ見つけの充実</li> <li>主体性・自己肯定感を育む家庭学習の充実</li> </ul>
<b>自校肯定感と安心感を育む</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが主語の授業展開 「ふるさと学習」が子どもの自慢に</li> <li>子どもと教師の対話時間の保障</li> <li>子どもたちが互いを認め合う自治的な活動を活発化</li> <li>保護者や地域の方と子どものよさで連携</li> </ul>	

「ふるさと学習」を核にし、岐阜まちの人・もの・文化から「生きる」を学び、社会参画する力を養う。学校・家庭・地域が連携しながら、子どもと大人の「ふるさと共創教育」を実現し、持続可能な「地域創造型の学校」を目指す。

学校内の運営体制（縦・横の連携）＝ チームで対応・協働		
学習指導部会	特活指導部会	健康安全指導部会
日常的な企画委員会（教育支援委員会＋臨時運営委員会）		
学年部会（低・中・高・特支）＝日常的な職員室デスク会議		
研究推進委員会		
「ふるさと学習（生活科・総合的な学習）」を中心に、「主体的・対話的で深い学び」とカリマネの実践		
学年部会（低・中・高・特支）： フレキシブルな学年教科等担任制・合同授業		
「ぎふMIRAI's」の展開、ロイロノート等の活用による「主体的・対話的で・深い学び」「個別最適な学び」の実現、「家庭学習」の充実によって、「自ら求めて学ぶ」力を育む		

学校運営協議会 ⇄ 支援推進委員会 ⇄ 専門部会		
(学校教育活動の参観と評価 地域行事への参加促進・参画意識の醸成 地域で活躍する場の提供)		
<b>学び部</b> 学習支援 読み聞かせ サマースクール	<b>地域行事部</b> ふれあいフェスタ	<b>安全・安心部</b> にっこり見守り隊（交通安全・防災・防犯）
家庭や地域との連携・協働 による <b>人づくり</b> （地域社会の一員としての自覚と態度の育成）と <b>町づくり</b> （持続可能な「地域創造型の学校」への進化・発展）のための <b>協働力</b> （模索）		

《学校経営の構え》 「明日も来なくなる学校」にするために、どんどん実行！

- ① 子どもが主体性を伸ばし、自己肯定感を高める挑戦をします。
- ② 子どもが自校肯定感と安心感を高める挑戦をします。
- ③ 学校・保護者・地域の方と「子どものよさ」でつながりをつくっていきます。

【危機管理】 報告・相談を大切に、解決までの道筋をチームで確認し合います。

# 校長の教育理念・経営方針「どんどん」

岐阜小学校長 清水也人

【理念】 ふるさとステーション「岐阜小」で育てる全ての子どもたちに、多くの大人（学校・保護者・地域）が、あたたかい愛情表現（笑顔や言葉、行動など）でつながり合えば、全ての子どもたちが「自分にはいいところがある」と気づき、自己肯定感が育つ。自己肯定感が育った多様な子どもたちが集り、互いを認め合いながら、共に希望をもって挑戦をどんどん積み重ねた先には、自校肯定感が育くまれる。そんな子どもたちが大人になった時には、持続可能な循環型のあたたかい地域社会（＝「ふるさと大好き」）を創造できる。

## 明日も来たくなる学校

「子供たちが楽しければいいんやて！」に隠された意味

～岐阜小コミュニティだより 2025. 3. 21 発行・巻頭言・青山会長の言葉より～

### 【子どもたちにはこんな思いを】

「学校って楽しい」「〇〇ができるようになったよ」「自分にはこんないいところがある」「それを分かってくれている仲間や先生がいる」「(自分、誰かのために) まちがっていい、やってみる」「みんなのおかげでなりたい自分に近づいた」

### 【保護者や地域の方にはこんな思いを】

岐阜小の先生は、「いつも明るく接してくれる」「子どもや保護者に親身になってくれている、安心して任せられる」「子どものよいところを見ていく」「子どもたちの憧れだ」「みんな話しやすい。話すのが楽しみ」

### (1) 子どもの主体性を伸ばし、自己肯定感を高める

- ・主体性を育む教育を展開する。「遊びは学び」遊びを通した学びと各教科等の学習とのつながり、体験活動を重視。
- ・「登校」は、あたりまえではなく、価値あることである。そして、来られない要因を複数の職員で親身になって捉える。
- ・子どもをよさで見えていくことを組織として決意する。その必要性和効果を指標等を用いながらリフレクションする。子ども、保護者や地域にも伝える。

#### ★複数の目で子どもを多面的に見取り、全ての子どものよさをみつけ、ほめて育てる。

- ・発達の段階に応じて、行為ではなく行為の背景にある意識を価値付ける。
- ・自己肯定感を育む「家庭学習」の充実（対話による相談や交流）
- ・一人一人の存在のかけがえのなさを伝えるために、子どもの誕生日を祝う（学年 or 学級で）
- ・どんどん賞（校長賞）や一人一人の表彰は校長室で行い、校長室前掲示で広める。

### (2) 自校肯定感と安心感を高める

★：学年教科等担任制・合同授業等を活用して

#### ★子どもと教師が対話する時間、子どもの選択肢を保障する。

#### ★「子どもが主語の授業」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「授業改善」へ挑戦（単元内自由進度学習等）

#### ★「ふるさと学習」を子どもが「学校の自慢」といえるまでに高め続ける。

- ・委員会（子ども）が子どものよさを放送を用いて全校に啓発するなど、自治的な活動を活発化する
- ・「よき選択」をした子どもの姿を逃さず拾い、全校の宝物として放送で、学校便りで共有する。

※「注意」が必要な時は、みんなの前ではなく、子ども一人一人に応じて、個別指導で納得を得る（理解できる）ように行うことを意識する。

※「これくらい…」「今までも…」「あの子だって…」「なぜ私だけ…」まずは子どもたちの思いを受け止める。

※「〇〇さん」を意図して指導改善を進める。

### (3) 保護者・地域の方の安心感を高める

#### ★学校運営協議会、地域サポーター、保護者サポーター（支援ボランティア）との交流（よさ報告）機会の充実

- ・来校された地域・保護者の方には「あいさつ」+α（よさ報告）
- ・子どもをよさで見えていくことの必要性和効果を指標等で示しながら、保護者や地域にも伝える。

※とりわけ困りごとは即オープン

※よさも、トラブルも「先に丁寧に」を大切に保護者に伝える。加害被害関係がある等複雑な場合は経緯や心理的背景、人関係等を把握し、学校として両保護者の立場に配慮しつつ、公正に説明できるストーリーとして理解できるまで整理する。更に謝罪等保護者同士の関係調整まで見通して伝えることを徹底する。

※連絡帳や電話でいただいた嬉しいお知らせにも、切実な訴えにも、迅速に誠実に対応する。

※情報を共有し、管理職も積極的に保護者に、子どもに声をかける。

#### (4) 職員のウェルビーイングを高める

- ・職員の「自分時間」「研修」「心の安定」を確保するために、作業的業務削減ブラッシュアップ。
- ・心理的安全性を高める研修を実施し、職員同士もお互いを「強み」で見えていく意識を醸成する。

★打ち合わせの際、司会学年部より、〇〇先生の好実践（重点①効果的な子どものよさの位置付け・価値づけ・方向づけ、②多様性を大切にしたり取り組み（家庭学習を含む）、③保護者・地域の方等との好連携）の報告

- ・打ち合わせ等で、その月生まれの職員の誕生日を歌でお祝いする。

・【危機管理意識改革：「報連相」から報相『行』確報へ】小さなトラブルも報告、相談を原則とし、解決までの道筋を確認。保護者対応は、決して担任や担当に任せきりにしない。困難又は心配な場合は管理職が対応、又は同席する。

#### (5) 指標の確認（実態調査・アンケート実施：7月、12月）

【アンケート項目】 ※令和6年7月策定（岐阜大学教職大学院教授：吉澤先生の協力）

	学校評価項目(児童)
1	じぶんには いいところがある
2	むちゅうになれる がっこうのかつどうや ならいごがある
3	ひとりひとりみんなちがう そのひとらしさがたいせつだと おもう
4	おうちのひとは ほめてくれる
5	ともだちは ほめてくれる
6	せんせいは ほめてくれる

	学校評価項目(保護者)
1	学校は、教育目標・教育方針を分かりやすく伝えている。
2	学校は、HPや通信等を通して、学校での子どもの様子がよく伝わるように情報提供している。
3	学校は、施設／設備の整備に努め、安全で整った教育環境をつくっている。
4	学校は、子どもに寄り添い、安心できる教育環境をつくっている。
5	学校は、体験活動を重視し、主体性を育む教育活動を展開している。
6	学校の職員は、子どものよさを大切に、誉めている。
7	学校は、子どもや保護者が相談しやすい雰囲気がある。
8	学校は、いじめの早期発見、適切な指導に取り組んでいる。
9	学校は、保護者と協力して教育活動を進めようとしている。
10	子どもは、家庭で規則正しい生活を送っている。
11	子どもは、「自分にはよいところがある」と感じている。
12	子どもは、「夢中になれる学校の活動や習い事などがある」と感じている。
13	子どもは、「一人一人みんなちがう」「その人らしさを大切にする」という気持ちがある。
14	子どもは、英語に親しんでいる。
15	子どもは、ICTを活用している。
16	子どもは、安心して学校生活を送っている。
17	家庭では、楽しかったことや嬉しかったことを話せる雰囲気がある。
18	家庭では、家族に不安や悩みなどを話せる雰囲気がある。
19	家庭では、よく子どもを誉め、大切な存在であることを伝えている。
20	家庭では、子どもと一緒に食事や会話、遊びや体験を行っている。
21	家庭では、子どもの学習状況を見届けたり、サポートをしたりしている。
22	岐阜小学校CSでは、「ふるさと大好き」を目指し、活動を工夫して行っている。

	学校評価項目(職員)
1	心理的安全性が高く、働きやすいチームである
2	管理職は、職員のよさを見つけ、励ましている
3	職員間で、互いのよさを見つけ、励まし合っている
4	「人はみんな違う、その人らしさを大切にする」という意識がある